

抗不安薬について



● 「不安」が起こる原因は？

- ◆ 神経に強い負荷（ストレス）がかかり、神経系のバランスが乱れ、興奮性神経系が抑制性神経系よりも強く働いてしまっている
- ◆ 不安をコントロールする、「セロトニン」という神経伝達物質を放出する神経の働きが不十分で、セロトニンが少なくなっていること、不安が生じるといわれています。

● 抗不安薬の働き方

不安を和らげる薬の働き方は、大きく2つに分類されます。

- ◆ 抑制性神経系の働きを強め、神経の興奮をやわらげる
エチゾラム、コンスタン、ジアゼパム、ロフラゼパム酸エチル、セニラン、セパゾン、ロラゼパム、等
- ◆ セロトニンが情報を伝達する神経に働き、セロトニンの働きを補う
セディール

※名称は当センター採用品目名

● 抗不安薬を使用する際の注意点は？

- ◆ 頓服薬として使用している方は、主治医に指示された使用方法を必ず守ってください。また、次回診察時に、頓服薬の使用状況を主治医にお伝えください。
- ◆ 強い眠気やけん怠感、脱力感が生じることがあり、転倒などのけがにつながる場合があります。特に高齢者では薬が体内に残っている時間が長くなる傾向があるため、注意が必要です。
- ◆ 特に神経の興奮を鎮めるタイプのお薬は、ゆっくりと調整を行い、困っている症状にあった、必要最小限の量を使うことが勧められるお薬です。そのため、自己判断で用量を調整してしまうと、症状が悪化することがあります。薬を調整したいと思ったときは、必ず主治医に相談してください。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪精神医療センター